

千葉市感染症発生動向調査情報

2026年 第37週 (9/7-9/13)

1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第37週	第36週	第35週	第34週
小児科	15	15	15	15
ARI(急性呼吸器感染症)	25	25	25	25
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段:報告患者数、下段:定点当たりの報告数

定点当たりの報告数:報告患者数件/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	9/7-9/13 第37週	8/31-9/6 第36週	8/24-8/30 第35週	8/17-8/23 第34週
小児科	RSウイルス感染症		9 0.60	5 0.33	3 0.20	3 0.20
	咽頭結膜熱		0 0.00	2 0.13	0 0.00	4 0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		11 0.73	11 0.73	20 1.33	16 1.07
	感染性胃腸炎	↓	47 3.13	53 3.53	31 2.07	34 2.27
	水痘		4 0.27	8 0.53	2 0.13	2 0.13
	手足口病	↑	47 3.13	26 1.73	43 2.87	49 3.27
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	突発性発しん		5 0.33	5 0.33	4 0.27	4 0.27
	ヘルパンギーナ		4 0.27	12 0.80	18 1.20	6 0.40
	流行性耳下腺炎		1 0.07	0 0.00	2 0.13	0 0.00
	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	↑	126 5.04	96 3.84	59 2.36	29 1.16
ARI	新型コロナウイルス感染症		39 1.56	40 1.60	27 1.08	18 0.72
	急性呼吸器感染症	↑	1,284 51.36	1,081 43.24	937 37.48	894 35.76
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	2 0.40	1 0.20	1 0.20
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎	↓	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	インフルエンザ入院	↓	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	新型コロナウイルス感染症入院	↓	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00

※「発生動向」欄のマークについて

<流行状況>

★★:「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★:「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。

<増減>:マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

↑・↓:「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

2 全数報告対象感染症 8 件

感染症		性別	年齢層	感染症		性別	年齢層
結核	無症状病原体保有者	男	10歳代	結核	患者	男	70歳代
	無症状病原体保有者	男	20歳代		患者	男	70歳代
	患者	女	30歳代	腸管出血性大腸菌感染症		女	30歳代
	無症状病原体保有者	男	50歳代	百日咳		女	50歳代

結核6件(102)、腸管出血性大腸菌感染症1件(20)、百日咳1件(57)の発生届出があった。

※ ()内は2026年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

3 定点当たり報告数のコメント

<感染性胃腸炎>

前週より減少し3.13となった。年齢階級別の報告数は1歳が最多。

<手足口病>

前週より増加し3.13となった。年齢階級別の報告数は1歳が最多。

<インフルエンザ>

第34週から連続して増加しており、5.04となった。年代別の報告数は10-19歳(合計)が最も多く、そのうち10-14歳が多かった。10歳未満では4歳が最多。

<新型コロナウイルス感染症>

前週からほぼ変化なく1.56となった。年代別の報告数は10-19歳(合計)が最も多く、10歳未満では2歳が最多。

<急性呼吸器感染症>

前週より増加し51.36となった。年代別の報告数は10歳未満(合計)が最も多く、そのうち1-4歳が多かった。

<無菌性髄膜炎>

前週より減少し0となった。

<インフルエンザ入院>

前週より減少し0となった。

<新型コロナウイルス感染症入院>

前週より減少し0となった。

■ 各感染症のグラフ、インフルエンザ発生状況は、市感染症情報センターWebSiteでご覧いただけます。

・感染症発生グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2026.pdf>

・インフルエンザ発生状況

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/influ2026.pdf>

■ トピック ■

<インフルエンザ>

インフルエンザは例年第36週から翌年の第35週までを1シーズンとしています。2026年は、シーズン前の第34週に流行開始の目安とされる1.0を上回り、その後も増加し続けていることから今後の発生動向に注意が必要です。

インフルエンザをはじめとする暑気の感染症対策には、「換気」「手洗い・手指消毒」「咳(せき)エチケット」が有効です。インフルエンザは主に冬季に流行しますが、暑い時期でも締め切った空間などでは感染リスクが高まります。一般の家庭用エアコンは空気を循環させるだけで換気を行っていません。高温多湿の時期においては、外気温の低い朝や夕方以降などに窓開けを行い、換気時間を多く取るなど、エアコンによる熱中症対策を優先しつつ、室温を上げずに適切な換気を行うことを推奨します。

また、高齢者や基礎疾患のある方が感染すると、重症化するリスクが高まります。高齢者と会ったり、通院や大人数で集まったりするときは、マスクの着用を含めた感染症対策へのご協力をお願いします。

詳細は、下記のリンク先をご参照ください。

インフルエンザ(総合ページ)(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/index.html

インフルエンザを予防しましょう!(千葉市)

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoisei/kenkokikikanri/influenza_prevention.html

※ 感染症発生動向調査とは、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療機関への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止することを目的としています。

<参考>千葉県感染症情報センター

<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>